

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームあぜ道独自の理念を作り、それを基にサービスが提供できるよう心がけている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に2回行われているミーティングで複唱を行っている。また、玄関・フロアなど目に付く箇所に掲示して、日々の生活の中でも理念を基にサービス提供を心がけている。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	利用開始時、外部評価結果配布時に理念を伝えていくとともに、日々の面会時にも随時伝えている。また、法人のパンフレットに理念の掲載をしており、多くの人に見てもらえる機会をつくっている。		
<b>2. 地域との支え合い</b>					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	天候の良い日は、散歩や近隣をドライブをする際に積極的に、あいさつを交わすようにしている。隣の施設から遊びに立ち寄られたり、花壇前で休憩されたり、自由に行き来できる関係ができており、お互いに会話を楽しんでもらっている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町の河川浄化活動に参加し、ゴミ拾いなどの活動を行っている。近辺での祭りや催し物は情報を集め、可能な限り参加しており、顔なじみになれるよう配慮している。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	グループホームで野菜づくり、漬物作りなどを実施しているが、「竹の子かわらばん」で地域の高齢者の方に指導のおさそいをして、生活に張りを出して欲しいと考えている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の記載は、職員全員で確認し自己評価としている。評価に参画する事で事業にとって大切なものが理解出来、改善につなげる事が出来ている。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施をし、欠席者にも後日会議録を渡し内容を把握してもらっている。会議では報告を行い、質疑応答の機会を設け、出た課題や意見は今後に反映するよう努めている。		
9	6	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在運営推進会議だけであり、介護相談員来所時に情報交換を行っているのみである。	○	現在あぜ道で抱えている解決困難な問題について、相談する機会をつくり、課題解決に向けた協働を行えるように取り組んでいきたい。
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度は、パンフレットを置き情報を提供している。又、法人内の研修委員会で各制度の勉強会において成年後見制度の項目を設けている。		
11	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご利用者の尊厳を考えると虐待はあってはならないものであり、この事について職員理解を深めるよう、ミーティング等で高齢者虐待防止法の内容を勉強し防止に努めている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12	—	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・契約書で利用開始時に説明を行い、又利用中に不安や質問がある場合はいつでも対応することを付け加えている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の会話・些細な表情や言動にも注目し、本人との関わりの中から、本人の意向を探る努力をしている。アンケートや苦情ボックスを設置したり、月に1回介護相談員の訪問がある。意見や苦情が出た際は、随時検討し話し合う機会を設けるようにしている。		
14	8	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時は状況報告を行い、写真は個人のファイルを用意し、好きな時に見て頂けるようにしている。又、年賀状や暑中見舞いを出している。緊急の際は、電話連絡行い報告するようにしている。個人の出納帳を用意し、定期的に報告行い、使途の確認・残高を把握できるようにし、必ず確認印を頂くようにしている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口に投書箱・アンケートを用意し家族の意見・不満・苦情等の意見を出せるように取り組んでいる。又、相談や苦情の窓口を設けており、第三者委員会も設置している。苦情は、ミーティングや緊急会議で検討し改善に努めている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートや月2回の会議時に意見交換できる場を設けている。必要であれば緊急ミーティングを開き検討会等を行う。個々では年2回の個人面談において、あらかじめ要望を受け面談時に対応している。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご利用者に合わせた勤務体制については常日頃から職員に話を行っている。変更の際は皆で検討のうえ調整している。あくまでご利用者中心で考えている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事異動はあるが、頻繁にあるわけではないので、決して馴染みの関係が途絶えるのではなく竹里会で行う行事ごとや訪問により関係は維持されるようダメージの軽減に努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては、本人のやる気等を重視し性別や年齢等を理由に排除等していない。18年度より人事考課制度の導入を実施し職員の育成を重視し、19年度の事業計画にも重点目標として、「職員にも選ばれる職場づくり」を掲げている。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	竹里会の基本理念にもうたっている様に、個人の尊厳を念頭に置き、ミーティング等で理念の唱和を行い指導している。又、研修報告を全体会議で行っている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で新任、基礎、専門、指導者等の外部研修に参加している。参加後は研修報告の場でフィードバックと波及効果に努めている。又、人事考課を導入し職員と話し合いのもと課題目標を設定し、段階に応じたの育成に取り組んでいる。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣の介護老人保健施設・山内医院等との交流があり、いつでも訪問できる体制をとっている。又、法人内の委員会への参加により、他事業所職員と互いに研鑽できる活動となっている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	互助会での親睦会や他施設職員との交流、面談での発言の場をつくっている。研修委員会でもメンタルケアに重視をおいたセミナーを定期的開催している。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課制度を取り入れており、職員個々の目標等面談時にお互い検討し設定している。評価では目標の達成度を確認し、納得しながらのステップアップを図っている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前の事前面接は必ず行き、本人が利用に対して感じていることなどを伺い、安心できる対応を検討している。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所相談や施設見学の際必要な情報は提供し、本人や家族の情報を頂く時、十分に話を聴いている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族のニーズを確認し、グループホームが適切でないと感じた場合は、パンフレット等を使用しながら他のサービスの紹介や説明を行っている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気から徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に当施設の様子を見学してもらい、雰囲気を感じ取ってもらったりしている。又、事前訪問しご利用者との関係作りに努めている。即入所ではなく、例えば一週間利用してもらい本人・家族の納得の上入所してもらった事がある。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中でも家事活動（買い物・食事・洗濯・掃除等）を共に行い、共に暮らすことを主眼に置いている。野菜や花を育てているが分からない事・育て方等をご利用者にアドバイスしてもらったり、意図的に聞き出している。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報交換を密に行い、本人を共同で支えていけるよう日頃から自然な関係を目指している。例えば家族との外出や月2～3回の外泊及びあぜ道での宿泊等の協力も得ている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人・家族の要望を踏まえお互いの関係が程よいものとなり、安心して過ごせるよう努めている。家族との外出や外泊やあぜ道での宿泊、又は年2～3回のあぜ道での外出時の参加等でご利用者と家族がゆっくり過ごせるような機会作りを行っている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室での散髪・パーマやなじみのお寺へのお参り等、なるべく継続してもらおうよう家族に働きかけたり共に出掛けたりしている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	ご利用者同士が一緒に行える生活行為の場面を設定し、声掛け合ったり、いたわりあったり出来るよう心掛けている。共に外出したり共に野菜を育てたりする機会を多くして、利用者間の関係作りに配慮している。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了しても病院へ面会に行ったり、他事業所での様子を見に行ったりしている。終了後も、いつでも相談などを受ける旨をご利用者や家族に伝えている。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
35	17	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人ひとりの思いや希望を聞き、職員間での話し合いや家族の協力を得ながら要望に応えられるよう取り組んでいる。日々の行動・表情等、状態観察を行うことにより変化や訴え等、把握に努めている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族の情報を得ることにより把握できている。家族と密に連携を取る事により、新たな情報を少しずつ付け加え、ご利用者の全体像を知る事が出来ると考える。家族の情報により、ご利用者の生活歴の把握に努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部			(取り組んで いきたい項目)	
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員間での情報交換や伝達を行う事により、ご利用者の生活リズムを把握出来ている。出来ないという情報にとらわれず、出来るか出来ないかは職員が実際に関わって、又、日々の行動・生活リズム等観察する事により把握している。		
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族のニーズと一人ひとりの状態を基に、本人がより良く暮らしていく為にどうしたら良いか検討し、その人らしい介護計画を意識して作成している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングシートを活用する事により3ヶ月毎の評価・見直しを実施している。	○	実施期間に関わらず、状態変化に応じた随時の見直し出来るよう、介護計画の作成に努めたい。
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・ケアチェック表及び、経過表に記録しこれらを通して、内容を知る事が出来、月2回のミーティングで介護計画のみなおし等の検討している。就業前、介護記録・申し送りノートに目を通す事で全職員に伝わるよう努めている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の協力を得ると共に、職員の知り得る情報を伝え、協力医療機関に随時指導・指示を受け生活の継続につなげている。隣接施設の喫茶りようやOT・PTの協力を得ることで、リハビリ機能の充実も図っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の図書館利用、商店への買い物、消防署訪問等を行い地域との関わりを図っている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部			(取り組んで いきたい項目)	
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問美容サービスの利用、図書館で開催された催し物や温泉施設での入浴等へ一緒に行ったりしている。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働についてはこれからの課題としている。	○	地域包括支援センターとどのようにご利用者を介在して協働体制がとれるのか検討していきたい。
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の情報を聞き、医療機関への希望を取り入れた支援を行っている。話し合いを密に行い、納得された上での受診支援を行っている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医療機関の受診を行い、いつでも電話で状況報告により指示・助言を頂ける様になっている。又、協力医療機関とも連携を取り、適切な指示・助言をもらって対処している。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関との連携を取り、適切な指示・助言をもらっている。又、協力医療施設とは隣接しているため散歩中でも看護職員とは会話する機会が多く、状態の報告もできている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時ご利用者情報を作成し、状況・状態を伝え家族の意向等を説明している。又、随時面会に行き入院時のダメージや混乱が少なくなるよう努めている。本人・家族の意向に従って協力している。		



項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族の希望にそった支援や、本人の状態に合わせた対応を行えるよう、本人・家族・医療機関と繰り返し話し合いをもっている。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化・終末期の支援については、開設当初からの課題であり、家族や医療機関と連携を図りながら支援に取り組んでいる。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化によるご利用者のダメージの話をを行うと共に、ご利用者情報とグループホームでのケアプランを申し送り、本人の習慣・好みの重要性・ケアの工夫等を伝えるよう努めている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	竹里会の「心のかぎ」に職員行動規範として、プライバシーに関する項目をあげている。職員は常にこの事を念頭において、言葉かけ、個人記録の取り扱いにも注意している。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	今年度より行事等についても職員が計画するのではなく、季節の話題のなかからご利用者に積極的にイベントに関わってもらっている。又、言葉でうまく表現できないご利用者は、表情や態度で意思を汲み取るよう努めている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の楽しみ(メイン)は、生活歴の中からケアプランに掲げ支援している。その日の気持ちや突然の要望についても、本人の気持ちを大切にしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	一人ひとり個人差があるので、好まれる服装や髪型を大切にし、毎日のお化粧品も身だしなみとしてする習慣となっている。又、外出時のおしゃれを楽しめるよう支援している。家族協力のもと行きつけの美容室に行けるよう努めている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食材買出しから食事の準備・配膳・下膳・片付けまで、ご利用者の活躍の場を配慮した上で職員と楽しみながら行っている。		
57	—	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物は数種類用意しておき、選んでもらっている。買い物に行き、自分自身食べたい物等購入できるよう支援している。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ご利用者の排泄のサインを把握し本人にしか聞こえないような排泄の声掛けや個人に合わせた声掛けに心掛けている。失敗してしまった場合でも、自尊心を傷つけないような声掛けで支援している。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は11時～17時の間で自分の好きな時に入って頂く。又、個別入浴で個人に合った長さで入浴をくつろいで頂く。入浴を拒むご利用者に対しては、時間を置いて別の職員が声掛けを行ってみたりと対応を工夫している。	○	夜間入浴は、現在のホームの状況では難しいが、開設当初からの課題でもあり、今後も検討していきたい。
60	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れないご利用者に対しては、日中休憩時間と活動時間のバランスを考え必要であれば病院受診の支援も行っている。又、フットマッサージケア等を行うことにより、ご利用者の安眠を図るよう努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活の場面で調理の下ごしらえ、後片付け、洗濯物たたみ等、それぞれに合った役割が確立している。又、外庭の草取り、野菜、花づくりも心身の安定につながっている。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際に値段を見比べたり、隣の施設の百円喫茶等に出掛けたりする事で自らお金を使えるよう支援している。本人の希望と能力に応じ金銭管理をして頂き精神の安定につながっているご利用者もいる。		
63	28	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩(ドライブ)や季節ごとの花園見物等、一緒に楽しめるよう雰囲気作りを行っている。又、花壇・庭の手入れなど自由に行えるよう支援している。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と相談・協力を得て自宅に荷物を取りに行ったり、自宅や温泉施設等へ外泊・外出できるよう支援している。		
65	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に相談・協力のうえ、電話の要求ある時は取り次ぎ、手紙・年賀状・暑中見舞い等やり取りをしている。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	24時間いつでも面会できるようにしており、好まれる場所でご利用者とお茶を飲まれながらゆっくりと過ごされる雰囲気を作っている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束その他の行動制限廃止マニュアルを作成し、職員はこれを把握し拘束のないケアに取り組んでいる。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の出入りをキャッチしチャイムが鳴るよう整備し、職員が必ず確認することで施錠をしていない。ご利用者・訪問客が自由に出入りできるようにしている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	出勤したらご利用者に挨拶しながら所在確認を行う。夜間はプライバシーに配慮しながら、巡回をおこなっている。フロアに必ず職員1名配置するよう職員間の声掛けを徹底している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	担当者を決め管理・保管を行っているが、ご利用者の能力に応じて、管理の方法を検討している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	年2回防災訓練を行い、職員に誘導方法等を指導している。また、事故報告書を作成し職員再発防止に努めている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアル作成や年1回の救急法を受講。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常時連絡表の作成を行い職員に周知している。年2回防災訓練を行い、非難経路・避難場所を確保している。又、運営推進会議で地域の協力を得ている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプランにリスク面の項目があるご利用者については、本人・家族と十分話し合い抑圧感のない暮らしができるよう支援している。又、面会時に随時近況報告を行っており、その都度リスクについても説明し理解を得ている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルサインは毎日測定を行い、体調の変化の早期発見に努めている。必要な情報は、職員間で共有し、体調の変化があった際は受診を行うよう支援している。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通りの内服薬を支援しており、症状の変化も確認している。薬の内容は個人ファイルに記載し、把握に努めている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	献立の工夫・水分摂取の場を増やす事、散歩や適度な運動の実施により、できるだけ自然排便につながるよう支援している。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行っている。拒否される方は、時間を置いたり、職員が義歯を洗浄したりうがいでだけでも行って頂く様にしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量が少ないご利用者には、こまめに提供し、摂取される様に工夫を行っている。1日の食事摂取量は記録している。	○	法人内の管理栄養士に相談し、栄養バランスのとれた食事の支援を考えていきたい。水分摂取量については、チェック表を作成し摂取量の把握に努めていきたい。
80	—	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗いうがいは積極的に行っている。ふきんやおしぼり等は、強酸性水で消毒を行い予防に努めている。感染予防マニュアルを作成し、実行することによって予防に努めている。		
81	—	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫の中を確認しながら、買い物に行き食材が残らないようにしている。調理用具は、毎回洗浄し日光消毒を行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先には花壇があり、花を植えている。又、ホームの周囲には小さな畑もあり、雰囲気作りに努めている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはゆっくりくつろげるようコタツを置き、テーブルも家庭で使われているような物を使用。ホーム内には、手芸の飾りで季節感を出している。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分に畳のスペースを配慮。又、コーナーにソファを置くなど居場所の選択を増やしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家族へ説明、その意図を理解して頂き、持参されるなじみのものを自居室での配置場所になるべく近付けるよう心掛けている。又、花を飾ったり、本人が作られた手芸作品を飾ったりして、快適な空間となるよう配慮している。		
86	—	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気はまめに行い、空気がこもらないようにしている。冷暖房はご利用者の意見を取り入れ、ききすぎないよう気を付けている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部分における廊下、浴室、トイレの手すり、浴槽の滑り止め、各居室トイレの手すり、畳スペース等の高さなど、個人の状況に応じた生活支援が送れるようにしている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室の表札やトイレの目印、又居室にのれんを掛ける等して混乱を防ぐ努力をしている。又、光に反応されるご利用者の場合は、夕暮れ時にカバーを掛けている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑や花壇には、ご利用者と一緒に水やりや手入れを行っている。中庭では、天気が良い日は日光浴などして、自然を感じられている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目</b>				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない



項目番号		項目	取り組みの成果				
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)				
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と	②家族の2/3くらいと	③家族の1/3くらいと	④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように	②数日に1回程度	③たまに	④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている	②少しずつ増えている	③あまり増えていない	④全くいない
100	—	○職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が	②職員の2/3くらいが	③職員の1/3くらいが	④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が	②利用者の2/3くらいが	③利用者の1/3くらいが	④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が	②家族等の2/3くらいが	③家族等の1/3くらいが	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

食事はご利用者にとって大きな楽しみの一つです。その食事作りを通して、ご利用者の力を存分に引き出し職員と一緒に楽しく作れる雰囲気大切にしています。その人らしい暮らしの支援ができたと思っています。法人の大きな目標である「和顔愛語」を胸に少しでもご利用者の笑顔が見られるよう職員一丸となって取り組んでいます。